

学校図書館図書等の整備・拡充を求める各界連絡会

主催者あいさつ（2021年10月5日）

本日はご多用の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、学校図書館図書整備等5か年計画は、1993年からこれまで、5次にわたって合計28年間、継続されてきました。

今年が第5次の最終年度に当たりますので、来年度からの第6次計画の実現に向けまして、国会議員の皆さま、文科省の皆さまに、改めて要望をお伝え申し上げたく、本日のこの集会を開催いたしました。

文科省は、今年の全国学力テストで、家庭の蔵書数、小学生や中学生の自宅に何冊ぐらい本があるかという実態について初めて調査しました。

学力テストの対象となる全国の小学6年生と中学3年生、合わせて200万人以上に質問したところ、自宅にある本が25冊以下と答えた小学6年生、中学3年生がそれぞれ約3割、26冊以上100冊以下という答えがこちらでも約3割、101冊以上の本が自宅にありますと答えた小学6年生、中学3年生がそれぞれ約4割といった結果でした。

自宅の蔵書数とテストの正答率の関係を調べますと、家庭の蔵書数が多いほど、正答率が高くなる傾向がみられました。

子どもの身近なところに本のある環境が学力を伸ばすことが、今回の初めての調査から分かります。

一方で、自宅の蔵書数は、家庭の経済的な事情にも左右されます。

そうなりますと、すべての子どもたちに等しく本のある環境を提供するには、学校図書館の充実が必要不可欠だということになります。

また、全国学力テストでは、小学生や中学生が新聞を読む習慣があるか、どの程度の頻度で読んでいるかについても調べています。

こちらについても、新聞をよく読む子どもほど、正答率が高くなる傾向が明らかになっています。

こうした調査結果を踏まえますと、学校図書館の図書、新聞をこれまで以上に一層充実させていくことが求められるということになるかと思えます。

それに加えて大事なのは、学校図書館に司書の方々、子どもたちに的確に図書や資料を手渡す人材である司書を増やしていくことです。

第6次の5か年計画では、図書、新聞の一層の充実と併せて、学校司書の全校配置の実現も要望してまいる考えです。

活字文化議員連盟の皆さま、学校図書館議員連盟の皆さま、また文部科学省の皆さまにおかれましては、今申し上げたような、本日のこの会の主旨をぜひご理解いただき、それぞれのお立場から、第6次の学校図書館図書整備等5か年計画の実現に向けて力強いご支援をいただきますよう、お願いを申し上げます、主催者からのご挨拶といたします。

ありがとうございました。

以上